

かじや知宏 ともひろ 議員報告



＜生年月日＞昭和43年9月12日 ＜年齢＞46歳 ＜出身地＞大阪府枚方市 ＜趣味＞読書、スポーツ観戦、神社仏閣巡り ＜血液型＞O型
＜経歴＞阪保育所→殿山第二小→枚方三中→牧野高→龍谷大→報知新聞社(11年)→枚方市広報課(3年3ヶ月)→行政書士

＜市役所＞〒573-8666 枚方市大垣内町2-1-20 電話072-841-1221代

＜自宅＞〒573-0171 枚方市北山1-23-57 電話090-3705-9393

Eメール tomohiro@t-kajiya.com

かじや知宏のホームページ
<http://www.t-kajiya.com>

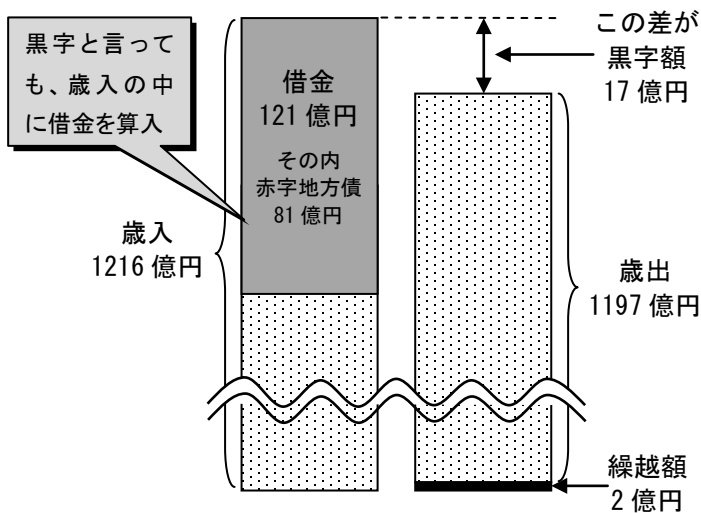
(1) 普通交付税と臨時財政対策債について

黒字財政の不都合な真実 私たちの借金が子どもたちの大きな負担に

「広報ひらかた」によると枚方市の平成25年度の決算は「17億円の黒字」「過去2番目の黒字額を計上」となっていますが、市の財政は本当に余裕があるのでしょうか？ 今回の一般質問では「年々残高が増加している臨時財政対策債（赤字地方債）について」、「いかにも余裕があるかのように広報されている黒字財政のカラクリ及びその広報のあり方について」、問題点を指摘するとともに改善について提案しました。

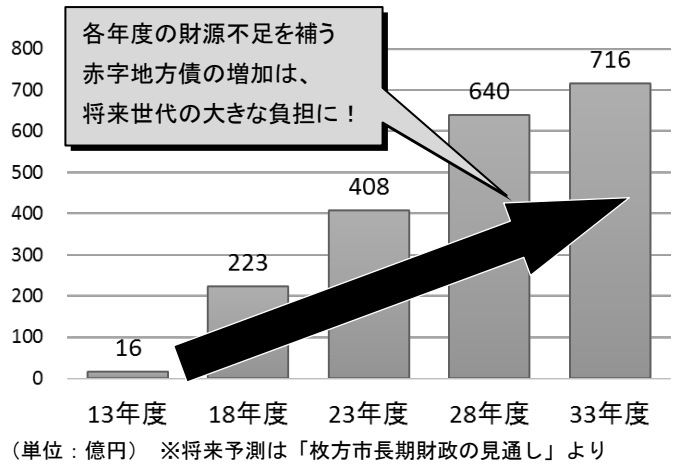
一般会計歳入・歳出の内訳

借金をするほど黒字が大きくなる仕組み



臨時財政対策債（赤字地方債）残高の推移

赤字地方債の残高は年々増加する傾向



＜次のページに続く＞

税金の流れの透明化

ムダの排除

既得権の見直し

市民の手に税金と政治を取り戻します!!

今回の議員報告は、12月議会で行った一般質問の項目を取り上げ、その要旨や考え方について掲載しています。なお、各質問の詳細については「かじや知宏のホームページ」に掲載していますのでご覧ください。この議員報告は、市政調査の目的で発行しています。枚方市政に関するご意見・ご提言・ご感想がございましたら、お気軽にお寄せください。皆さまから頂戴したご意見等は、今後の議員活動に生かしていきます。



人口減少社会を迎え、厳しさを増す地方財政 徹底した行政改革で将来世代の負担軽減を

地方交付税の不足分を市の借金で補う制度

臨時財政対策債とは、いわゆる赤字地方債で、国から地方自治体に交付すべき地方交付税のお金が不足しているため、不足分を地方自治体で借金できるようにした平成13年度からの臨時措置です。自治体が借りたお金は、後年に国から地方交付税により20年償還で措置されることとなっていますが、あくまでも地方自治体の責任において行う借金です。枚方市では、国から認められた金額を満額借り入れしています。国が保証人になって、後から支払ってくれるのだから、問題ないのではと思われそうですが、実はこの臨財債は様々な問題を抱えているのです。

毎年の財源不足を埋めるための借金

まずはその性質についてです。道路や公共施設などのインフラ整備に充てるその他の地方債は、数十年にわたって道路や公共施設が市民の資産として残るので、将来世代は負担だけでなく恩恵も受けることとなります。家計で言うと住宅ローンのようなもので、世代間で受益と負担を分担するためのものがあり、一定許容できるものです。しかし、臨財債は使途に制限がなく、その年、その年の財源不足を補うためのものであり、将来世代への負担の先送りだけはありません。家計で言うと日々の暮らしに必要な経費を消費者金融で借りるようなもので、まさに赤字地方債と言われるゆえんです。将来世代へ大きなツケを残さないためにも、その借入残高の増加には注意を払う必要があります。

借金の返済に借金を充てる自転車操業

次に償還費用についてです。後年の地方交付税に算入すると言われている償還費用ですが、実はすべて現金で措置されているわけではありません。枚方市が本来国からもらえる地方交付税の額は26年度で計算上約206億円となりますが、実際に現金でもらえるのがその内の6割に当たる約124億円で、あとの4割に当たる約82億円は臨財債として市が借金を

して肩代わりしなければなりません。この肩代わりした82億円については、国が後から20年償還で面倒を見ることになっていますが、実はカラクリがあります。償還費用についても計算上は交付税と同じで、現金でもらえるのは6割、あとの4割はさらに借金をして肩代わりをしなければならないということです。この臨財債は、借金の償還費用をさらなる借金で賄うという自転車操業の危険な制度です。このまま満額の借り入れを続ければ、年々残高が増加していくのは明らかです。市の累積残高は21年度末で295億6900万円だったのが25年度末では517億8000万円まで増加し、32年度には700億円を超えると予測されています。また、すべての自治体の臨財債の累積残高は、既に48兆円を超えています。13年度から3年間の臨時的措置と言いながら、10年以上も制度が続いていることを見ても、既に地方財政制度そのものが限界に達していると思われる。

将来世代のためにも赤字地方債の抑制を

市はこれまで人件費の削減など行政改革に取り組み、地方債残高の抑制に努めていますが、その他の地方債残高が減少する一方、臨財債残高は増加の一途をたどっています。国と地方の借金が1000兆円を超える現状で、今後も国が償還金を保証してくれるという甘い認識でいいのでしょうか。市の責任で行っている借金である以上、最終的な負担は枚方市民が背負うこととなります。今回の消費税の増税延期により、臨財債の割合がさらに増す可能性も指摘されていますが、その時々国の政策の変更により地方自治体の財政は大きく左右されます。今後、人口減少社会を迎え、さらに国・地方の財政状況が厳しくなることが予想される中、自治体の判断で財政規律を維持していくことが求められます。市としてできることには限界がありますが、臨財債を満額借り入れるのではなく抑制に努めていくこと、また、事務事業の見直しをはじめとした行政改革のさらなる取り組みを進め歳出を抑制するよう提言しました。



黒字額を大きく上回る121億円もの借金 財政の厳しい状況を正しく市民に伝えるべき

枚方市の平成25年度の決算は、一般会計の実質収支で17億円の黒字となっています。昨年「広報ひらかた」10月号には「17億円の黒字 過去2番目の黒字額を計上」との大きな見出しが掲載され、さも枚方市の財政運営に余裕があるかのような報告がされています。実際にこの記事を読んだ市民の方から「市の財政は黒字やから、余裕があるんやろ。あまり行革、行革って言う必要ないんちゃうの？」という意見を頂きました。

しかし、本当のところはどうなのでしょう。実は歳入の中に約121億円もの借金が算入されているのです。市の決算は民間企業と違い、借金をすれば

するほど歳入が増えて黒字になるというカラクリがあります。17億円の黒字のウラには、121億円もの借金の存在があるのです。黒字などの良い面だけを強調し、人口減少・少子高齢化による税収の減少や社会保障費の増大、またそれに伴う赤字地方債の増加など、厳しい財政状況を正確に伝えない広報のあり方には問題があります。このことは、市民の意識をミスリードすることに繋がり、結果、行財政改革を停滞させ、財政健全化の障害にもなります。 今後は、厳しい財政状況が市民に正しく伝わるよう「広報ひらかた」の見出しの付け方や、記事の取り上げ方についての改善を提言しました。

(2) シティプロモーションについて

【かじや 質問】 シティプロモーションは、市がめざすまちの姿や、まちづくりの基本目標などの大きな方向性に基づき展開していく必要があると考えますが、今後の展開についてお聞きします。

【戦略本部担当理事 答弁】 総合計画を踏まえ、定住・交流人口を増加させる上でカギとなる子育て世代を意識し、戦略性を持って他市の施策や民間のアイデアを取り入れるための調査・検証等を行っていきます。



税収の安定のためには定住人口の確保が不可欠 若者世代の定住・誘導を促す戦略的な施策展開を

少子高齢化・人口減少が急速に進展している現在の日本の社会情勢を反映し、枚方市でも人口減少傾向が現れ始めており、今後も市税収入等の歳入を安定的に確保していくことが困難になっていくことが予想されます。

他市では、この状況を何とか打開しようと「シティプロモーション推進」と銘打った専門部署を設置するなど、定住人口減少に歯止めをかけるための取り組みが、かなり多く見られるようになってきました。

人口減少社会を迎える中、いかに定住人口を確保して安定した税収を維持していくのが、自治体が生き残るための大きなカギとなります。そのために

「住みたい・住み続けたいまち」と多くの方に思ってもらうための手法が、シティプロモーションです。枚方市でも市の魅力を市内外に発信するため「シティプロモーションムービー」を制作しましたが、ムービーなどの単なる広報宣伝だけにとどまらず、定住人口確保に向けた直接的な施策を戦略的に立案し、展開することで、初めて効果が出てくるものだと考えます。

今後、人口動態や住民の生活形態などに関するデータをはじめ、他市の施策などをしっかりと分析した上で、地域の活力となる若者世代の定住・誘導を促すようなシティプロモーションに、市役所をあげて取り組んでいくよう提言しました。

人口減少社会に対応した新たな政治・行政の仕組みをつくっていきます

あしたの枚方のために **新しい政治への挑戦**

◆人口減少・少子高齢化の時代にあっても、枚方市が「持続的発展が可能な自治体」となるためには、若者世代を中心とした定住促進・人口誘導による税収の確保と、行財政改革による歳出削減・財政規律の確立が不可欠です。今号では12月議会で質問をした項目の中から、臨時財政対策債（赤字地方債）の問題点についてと定住人口確保に向けたシティプロモーションの展開について取り上げました。いずれも、枚方市がこれから目指すべきまちづくりにとって、大きな方向性を示すものです。

◆枚方市の財政状況は決して楽観できるものではありません。これからの枚方市をどのようなまちにしていくのか、子や孫の世代にも住み続けてもらえるまちにできるかどうか。その舵取りは市民の皆さんの手に委ねられています。

◆国・地方合わせて1000兆円を超える借金も、ある意味、有権者の意に沿った政治の結果です。公共施設や各種市民サービス、補助金など、すべて各種団体や有権者が政治家に要求要望してきたことです。このような要求要望の実現を選挙の票に繋げてきたこれまでの政治の仕組みを変えない限り、借金は膨らみ続け将来世代への負担は重くなるという構図は変わりません。地域の行事や冠婚葬祭に顔を出してくれたからとか、地域の要求要望を市に口利きしてくれたからとか、今までこの

ような基準で議員を選んでいませんでしたか？もし皆さんが「子どもや孫たちに将来大きな負担を背負わせたくない」と思われるのであれば、これまでと違う選択を検討してみてください。

◆かじや知宏は、子どもたちを含めたすべての世代にとって明るい未来となるよう、まちづくりの展望を示し、そのための方策を提案していくことが、これからの政治の役割だと考えています。市民の皆さんに選出して頂いて以来4年間、その信念を貫き議員活動をしてきました。

◆「口利き」「顔繋ぎ」「利益誘導」の政治とは縁を切り、今こそ新しい政治を選択するときです。このまま「消滅する自治体」になるのか、政治・行政の役割を見直す構造改革を断行し「持続的発展が可能な自治体」になるのか、枚方市の未来は、皆さんの選択にかかっています。



活動の詳細についてはホームページをご覧ください

かじや知宏

で 検索



携帯電話からブログ
をご覧になれます



tomohiro.kajiya



@kajiya_tomohiro

※フェイスブックとツイッターのアカウントを開設しています。

駅前報告を行っています

～530回継続中～

一人でも多くの市民の方に市政情報をお伝えしたいという思いから、駅前「議員報告」の配布を行っています。もし見かけられましたら、お気軽にお声掛けください。